

November 2022
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

11



NOVEMBER

NO

EMBER

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々と距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用やこまめな手指の消毒等、ご来場のみなさま同様にご感染予防の対策を行います。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



会場での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

- 撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください
- フラッシュの使用はご遠慮ください

PHILHARMONY

CONTENTS

NOVEMBER 2022

11

- 3 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 7 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 12 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 16 [シリーズ] **N響百年史** | 第32回 | 続・“ケーニヒの学校” 片山杜秀
-
- 20 2022年12月定期公演のプログラムについて
—— 公演企画担当者から
- 22 チケットのご案内
- 23 2022-23定期公演プログラム
- 25 特別公演／各地の公演
- 29 NHK交響楽団メンバー
- 30 特別支援・特別協力・賛助会員
- 34 曲目解説執筆者／Information
- 35 みなさまの声をお聞かせください!
- 36 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members
- [Artist Profiles & Program Notes]
- 37 Program A
- 40 Program B
- 44 Program C
- 46 The Subscription Concerts Program 2022-23
- 48 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは35ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第1968回

NHKホール

11/12 土 6:00pm11/13 日 2:00pm

指揮

井上道義

コンサートマスター

伊藤亮太郎

伊福部 昭

シンフォニア・タップカーラ [31']

I レント・モルトーアレグロ

II アダージョ

III ヴィヴァーチェ

使用楽譜:東京音楽大学付属図書館ニッポニカ・アーカイヴ・コレクション

—— 休憩 (20分) ——

シヨスタコーヴィチ

交響曲 第10番 ホ短調 作品93 [55']

I モデラート

II アレグロ

III アレグレット

IV アンダンテーアレグロ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは35ページをご覧ください



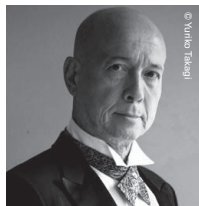
こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profile

井上道義 (指揮)



© Michio Ono

1946年東京生まれ。桐朋学園大学にて齋藤秀雄に師事。1971年ミラノ・スカラ座主催グイド・カンテルリ指揮者コンクールで優勝し、世界的な活躍を開始した。国内では、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督(現・桂冠指揮者)を歴任。海外では、シカゴ交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団などの著名楽団と共演を重ね、ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者も務めた。

2007年には日露5つの楽団とともに「日露友好ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を実施して大成功を収めた。2014年4月、病に倒れるも、同年10月に復帰。2015年と2020年に野田秀樹演出《フィガロの結婚》、2017年に大阪国際フェスティバルでバーンスタイン《ミサ》、2019年に森山開次演出《ドン・ジョヴァンニ》の総監督として唯一無二の舞台を創造した。だが昨年11月、自身のブログで2024年末での引退を宣言。今後は毎回がより貴重な演奏となる。

N響では1978年5月の初共演以来、海外での演奏を含む70公演以上を指揮。今年のN響「第9」にも登壇予定だ。得意とする伊福部昭、ショスタコーヴィチの傑作交響作品が並んだ今回のプログラムには、ひととき大きな期待が集まる。

[柴田克彦／音楽評論家]

Program Notes | 千葉 潤

「ショスタコーヴィチは自分だ」と豪語する井上。その言葉をまざまざと証した2016年の《第12番》、2019年の《第11番》の迫真の名演を経て、いよいよ最高傑作との呼び声も高い《第10番》は、井上がライフワークとしてきたショスタコーヴィチの集大成となるだろう。他方、ショスタコーヴィチと伊福部の意外な組み合わせは、2020年12月のコンサートでその面白さを実証済みだ。井上とN響の両者が納得のいく選曲での「完全燃焼」を期待したい。

伊福部 昭

シンフォニア・タプカーラ

「すべての芸術はその民族の特殊性を通過して共通の人間性に到達する」——これほど端的に伊福部昭(1914~2006)の芸術観を表す言葉はないだろう。9歳からの3年間、北海道・音更^{おとよけ}で接したアイヌの人々の歌と踊りが彼の音楽性の根本を形成したとす

れば、それを芸術へと練り上げるモデルとなったのは、ストラヴィンスキーやファリャなど、ヨーロッパ周辺出身の作曲家たちだった。西欧的な主題展開を拒否したモザイク的な形式、息の長い旋律、執拗^{しつよう}なオスティナートといった伊福部独特の音楽語法のエッセンスは、アイヌの立ち踊りにちなんで名づけられた交響曲《シンフォニア・タブカーラ》に凝縮されている。

第1楽章 レント・モルト、ニ短調—アレグロ、8分の4+3拍子。堂々とした冒頭の旋律が次第にテンポを上げてアレグロ主部に成長する。やがて、独奏トランペットによる息の長い第2主題、どっしり足踏みするような第3主題と入れ替わりながら進み、ホルンとチェロのカデンツァを挟んで、アレグロで締めくくられる。

第2楽章 アダージョ、8分の6拍子。ハーブが奏するオスティナートを軸に、伊福部ならではの茫洋^{ぼうよう}とした旋律が歌われる。イングリッシュ・ホルンの独奏で始まる中間部では、随伴する短いオスティナート音型がやがて激しい感情の爆発を導き出す。

第3楽章 ヴィヴァーチェ、4分の4拍子。騒然とした序奏につづき、主部では4拍子の陽気な踊りと3拍子+2拍子の陰りのある踊りが交替しながら進む。中間部ではまず独奏オーボエが奏する新しい主題がカノンを織りなし、さらにいくつかのエピソードが不規則に交替しながら成長を遂げる。主部再現ののち、これまでのエピソードが畳みかけるように盛り上げる最後は圧巻である。

作曲年代	1954年、《タブカーラ交響曲》として作曲。1979年に改訂、《シンフォニア・タブカーラ》に改題
初演	[初稿版]1955年1月26日、ファビアン・セヴィツキー指揮、インディアナポリス交響楽団、インディアナポリスにて [改訂版]1980年4月6日、芥川也寸志指揮、新交響楽団、東京にて
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トムトム、小太鼓、ティンパレス、グイロ、ハーブ1、弦楽

ショスタコーヴィチ

交響曲 第10番 ホ短調 作品93

1953年3月5日、奇しくもプロコフィエフと同日にスターリンが死去する。厳しい批判を浴びた前作から8年間の雌伏の時を経て、ドミートリ・ショスタコーヴィチ(1906~1975)が満を持して発表したのが《交響曲第10番》である。同年末の初演は、長らく停滞したソ連作曲界の「雪どけ」に向けての決定的な一歩となり、《第5番》によって確立されたショスタコーヴィチの純器乐的な交響曲シリーズは、この曲で頂点を極めることになった。

この作品では、これまで彼が駆使してきたさまざまな表現イデオロム(ユダヤ音楽、音名象徴、引用やほのめかし)が暗号のように張り巡らされる一方、楽章をまたいだ主題動機の回想や予告によって全体は幾重にも関連付けられており、魅力的な語り口とその意味

の広がり、浅薄な解釈を寄せ付けない。こうした謎めいた音楽の在り方こそ、まさにスターリン体制との^{うよきよくせつ}紆余曲折のなかでショスタコーヴィチが練り上げてきたものであり、これ以降、彼がこのような様式に戻ることはなかった。抑圧的な体制の下で、時代と個人の真実を体現してきたショスタコーヴィチの交響曲だが、「歴史は繰り返す」の言葉どおり、作曲者が生きた体制や時代を越えて、その響きはますます現代の聴衆の共感と呼んでいる。

第1楽章 モデラート、ホ短調、4分の3拍子。一貫して中庸なテンポによるソナタ形式。深く陰影に富んだ序奏、クラリネットが歌う叙情的な第1主題、拍子のずれたワルツのような第2主題の3つの主題が、長大な楽章を途切れることのない緊張の糸で貫徹する。展開部では、性格を極端に変容させた主題が重厚な対位法を織りなしながら、悲劇的クライマックスに向けて冷徹に歩みを進める。第1主題の再現かと思わせて第2主題に入れ替わる意味あがりな演出効果が絶妙だ。

第2楽章 アレグロ、変ロ短調、4分の2拍子。前楽章とは対照的に、疾風怒濤のように走り抜けるスケルツォ。冒頭の主題は、為政者の悲劇を描くムソルグスキー《ボリス・ゴドノフ》の序奏に類似しているが、クライマックスでトロンボーンが主題を再現する様は、むしろ《はげ山の一夜》を^{ほうふつ}彷彿させる。引用やほのめかしを得意とするショスタコーヴィチならではの音楽である。

第3楽章 アレグレット、ハ短調、4分の3拍子、ロンド・ソナタ形式。舞曲風エピソードの動機はショスタコーヴィチの音名象徴(レミドシ)、中間部のホルン主題は、この時期に親密な関係にあった女性エリミラ^{しつぼう どうとう}の音名象徴(ミラミレラ)である(彼女宛ての手紙でショスタコーヴィチは、この主題が敬愛するマーラーの《交響曲「大地の歌」》の冒頭主題に類似していること、この主題が死や別離を意味する不幸の象徴であることを説明している)。中間部での第1楽章回想や第4楽章予告を経て、後半は2人の名前が織りなす激しい展開部となる。

第4楽章 アンダンテ、8分の6拍子、ロ短調—アレグロ、4分の2拍子、ニ長調、ソナタ形式。展開部のクライマックスで第2楽章の威嚇的な音楽が回帰するが、トゥッティによるショスタコーヴィチの音名象徴によって圧倒される。ユーモラスなファゴットの主題再現を経て、コーダでは、この音名象徴が勝ち誇るように何度も連呼される。

作曲年代	主要な作曲時期は1953年6月から10月にかけて。第1楽章の完成は8月5日、第4楽章の完成は10月25日
初演	1953年12月17日、エフゲーニ・ムラヴィンスキー指揮、旧レニングラード・フィルハーモニー交響楽団、旧レニングラードにて
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(Esクラリネット1)、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、シロフォン、弦楽

PROGRAM

B

第1970回

サントリーホール

11/23 水祝 7:00pm

11/24 木 7:00pm

指揮 レナード・スラットキン

ヴァイオリン レイ・チェン

コンサートマスター 伊藤亮太郎 | ※当初出演を予定していた白井圭より変更となりました。

ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年

ヴォーン・ウィリアムズ
「富める人とラザロ」の
5つのヴァリエーション[11']

メンデルスゾーン
ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
[30']

- I アレグロ・モルト・アパッショナート
- II アンダンテ
- III アレグレット・ノン・トロポ
—アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

—休憩(20分)—

ヴォーン・ウィリアムズ
交響曲 第5番 二長調 [39']

- I 前奏曲:モデラート
- II スケルツォ:プレスト・ミステリオソ
- III ロマンズ:レント
- IV パッサカリア:モデラート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは35ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

レナード・スラットキン(指揮)



世界的な名指揮者レナード・スラットキンは1944年ロサンゼルス生まれ、父は高名な指揮者・ヴァイオリニストで、ハリウッド弦楽四重奏団の創設者であるフェリックス・スラットキン、母もこの四重奏団のチェロ奏者という音楽一家の家庭に育った。指揮はジュリアード音楽院でジャン・ポール・モレルに師事している。1979年から1996年までセントルイス交響楽団の音楽監督を務め、楽団の演奏レベルを大きく向上させるとともに多くの録音を行なった。1996年から2008年まではワシントン・ナショナル交響楽団の音楽監督として活動、2000年から2004年にはBBC交響楽団の首席指揮者も兼任している。2008年にデトロイト交響楽団の音楽監督に就任、10年間にわたって楽団の発展に貢献し(現在は桂冠音楽監督)、また2011年から2017年にはリヨン国立管弦楽団音楽監督としても大きな業績を残した(現在は名誉音楽監督)。世界各地の名門オケへの客演も多く、N響とも1984年の初共演以来ほぼ数年おきに客演して深い信頼関係を築いている。

スラットキンの生み出す音楽は明朗でダイナミックな広がりや細部の綿密さを併せ持つが、今回もそうした美質が彼の十八番であるヴォーン・ウィリアムズやコープランドの作品で十二分に発揮されるだろう。日本では演奏機会が少ないこれらの作品の真価を知らしめる定期公演となるに違いない。

[寺西基之／音楽評論家]

レイ・チェン(ヴァイオリン)



台湾で生まれ、オーストラリアで育ったレイ・チェンは、15歳のとき、カーティス音楽院(アメリカ、フィラデルフィア)に入学を許され、同音楽院でアーロン・ローザンドに師事した。2008年のユーディ・メニューイン国際コンクール、2009年のエリザベート王妃国際コンクールに優勝し、世界的な注目を集めることになった。ヨーロッパの有力な音楽雑誌である『ストラッド』と『グラモフォン』両誌に「注目すべきアーティスト」として紹介され、経済雑誌である『フォーブス』誌では「最も影響力のある30歳未満のアジア人30人」に選ばれたこともある。国際コンクール優勝後、ロンドン交響楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニックなどの世界的オーケストラと、またリカルド・シャイー、ウラディーミル・ユロフスキ、サカリ・オラモなどの指揮者と共演を重ねている。

現在は日本音楽財団から貸与された1714年製ストラディヴァリウス「ドルフィン」を使用している。

[片桐卓也／音楽評論家]

「作曲家は同胞たちと共に生き、自らの芸術を共同体の生活全般の表現に変えていかなければならない」——彼はそう語った。今年10月に生誕150年を迎えたレイフ・ヴォーン・ウィリアムズ(1872~1958)。彼は86年の生涯をイギリス社会における音楽の「再生」に捧げた。彼がその根幹に据えたのは、民衆が歌い継いできたイングランド各地の民謡だった。「私たちの言葉と私たちの歌は、新しい葉を生やし続ける古い樹木のようなものだ」——作曲家の後期の代表作を通して、彼の追い求めたイギリス音楽の理想に耳を傾けよう。

ヴォーン・ウィリアムズ

「富める人とラザロ」の5つのヴァリエント

《「富める人とラザロ」の5つのヴァリエント》は、1939年のニューヨーク万国博覧会のために作曲された。音楽による国際親善の代表として、すでにイギリスの作曲界の中心的人物となっていた66歳の作曲者に白羽の矢が立ったのである。

《富める人とラザロ》は、新約聖書の金持ちと貧者ラザロの寓話を元にしたバラッド(物語歌)である。イングランド各地でさまざまなヴァリエントにより歌われていたことが、作曲家自身も含む民謡蒐集家たちの手で記録されている。彼の人生の中で、この歌はとりわけ深い意味をもつものだった。それは、彼がこの旋律にイングランド人としての彼自身の心と響き合うものを感じていたからだ。まだ20代半ばのころ、ブロードウッドとフラー・メイトランドが編纂した民謡集に、この旋律を偶然見つけた時のことを彼はこう回想している——「初めて通して弾いた時、これが、私たちが皆、待ち望んでいたものであることを悟った。同時に、それはすでに知っているものでもあった。知ってさえいれば、身近にあるものだった。全く新しく、それでいて完全になじみのあるものだった」。

ヴァリエントとは、同じ民謡のうち、歌詞や旋律に異同のあるものを指す用語である。作曲者はスコアに、「これらのヴァリエントは伝統的な旋律の正確な複製ではなく、むしろ私自身や他の人が蒐集したヴァージョンの回想である」と記している。作曲家は年若い民謡歌手と同じように、古い記憶から自らのヴァリエントを紡ぎ出していったのだ。

本作では短い序奏と主題のあと、5つのヴァリエントが続く。元の旋律が4拍子でゆったりと歌われるのに対して、ヴァリエントでは生き生きとした3拍子や2拍子となり、性格やテクスチャーも多彩に変化する。限られた音色の扱いも巧みである。弦楽合奏は印象派風に繊細に細分化され、いくつもの対旋律が鳩のように絡み合う。ハープはエオリア旋法の古風な響きに彩りを添えていく。最後のヴァリエントにたどり着くと、音楽は再びゆったりとした流れの中に回帰し、序奏の和音を幻想的に回想しながら閉じられる。

作曲年代	1939年
初演	1939年6月10日、エードリアン・ポルト指揮、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団
楽器編成	ハープ2、弦楽

メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

19世紀、ドイツ・ロマン派の作曲家たちが器楽の領域で志向したのは、すでに確立した形式をいかにロマン的な詩情にふさわしい媒体に変容させるか、そして楽曲全体を有機的な統一という理想へとどのように近づけるかということだった。

「ホ短調の協奏曲が頭の中を流れていて、その開始部に私の心が休まることはありません」——1838年、友人のヴァイオリニスト、フェルディナント・ダーヴィトに宛てた手紙の中で、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809～1847)はヴァイオリン協奏曲の構想を打ち明けている。しかし、実際に本作が完成するのは、その6年後、1844年のことだった。書き上げたスコアを前に、彼は逡巡する。ダーヴィトに再び手紙を送り、カデンツァや管弦楽とのバランスなど、専門的な助言を請うた。入念な修正が施され、1845年3月、ダーヴィトの独奏で本作は初演された。

本作で最も印象的なのは、先の手紙でも言及されていた開始部だろう。ソナタ形式の第1楽章では、管弦楽の導入部を廃し、シンプルな伴奏に乗って、独奏ヴァイオリンが直接、叙情的な主要主題を奏で始める。これは敬愛するモーツァルトへのオマージュでもあった。カデンツァの扱いは独創的だ。終結部ではなく、展開部と再現部の間に配置され、カデンツァを締めくくる独奏ヴァイオリンの分散和音を伴奏に、今度は管弦楽が主要主題を受けもつ。実に洗練された形で、両者の有機的な統合が図られているのだ。

3つの楽章が全て切れ目なく連続しているのも、有機的な統一を図るためのもうひとつの工夫である。第1楽章最後のファゴットのロ音から数小節のうちに、3度下のハ長調へと幻想的に転調し、6/8拍子のロマンス風の第2楽章が始まる。第3楽章も独奏ヴァイオリンの情熱的な連結部によって、前の楽章となめらかに接続される。ロンド・ソナタ形式による主部の開始を告げるのは、管楽器のファンファーレだ。軽やかに飛び回る独奏ヴァイオリンに導かれながら、《夏の夜の夢》の音楽を思わせる晴れやかな大団円を迎える。

作曲年代	1838～1844年
初演	1845年3月13日、フェルディナント・ダーヴィト独奏、ニルス・ゲーゼ指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

交響曲 第5番 二長調

「この狂気が終わった時、私たちが何のために仕事をしなければならないのかを示してくれている」——作曲家の盟友でもあった指揮者のエードリアン・ボルトは、本作の初演を聴き、その感想を作曲家に宛てた手紙にこう綴った。作品は1938年から1943年にかけて書かれ、その初演は戦時下にあったイギリスの人々に大きな感銘を与えた。

本作を貫くのは、調和と古典的な明晰さだ。それは、激しく暴力的な曲想で人々に衝撃を与えた10年前の《第4番》(1931～1934)とは対照的なものだった。彼自身も認めていたように、その変化は年齢によるものだったのかもしれない。しかし、40歳近く歳の離れたアーシュラ・ウッドとの恋愛や、さまざまな社会活動に熱心に取り組むなど、彼は戦時下を精力的に生きた。1943年に作品がようやく完成した時、彼は70歳になっていた。

作曲にあたって、彼は主に2つの別の作品から素材を転用している。1938年の《野外劇「イングランドの素晴らしき大地に」》と、長年構想を温めていたジョン・バニヤンの寓意物語による《歌劇「天路歷程」》(1951年完成)である。原風景としての田園のイメージや敬虔な宗教性と結びついたこれらの素材が融合し、作品全体の構想は固まった。

静寂の中にホルンの動機がこだまし、第1楽章〈前奏曲〉は始まる。二長調という指定は暫定的なものでしかない。低弦によるハ音の保続音によってミクソリディア旋法の独特な陰影が印象づけられるのも束の間、調は精緻な設計のもと揺れ動く。3部形式の中に主題の交替と転調がもたらす繊細な色彩の変化こそ、この美しい楽章のエッセンスと言っている。「神秘的に」と指示された第2楽章〈スケルツォ〉では、精妙に楽器の音色を配置しながら、冒頭の五音音階の動機を背景に、個性の異なるいくつもの主題が軽やかに展開する。瞑想的な雰囲気第3楽章〈ロマンス〉は、全曲の精神的な核とも言える楽章である。冒頭のイングリッシュ・ホルンの独奏は、歌劇《天路歷程》の第1幕第2場(主人公が「麗しの家」にたどり着く場面)の音楽に基づき、この旋律を軸に複数の主題が交替しながら情熱的な高まりを見せる。第4楽章〈パッサカリア〉は、低弦が提示する主題の反復に基づく古典的な変奏曲形式による。主題の扱いは柔軟性に富み、多様な性格のいくつもの変奏が自由に飛躍する。終結部では、その到達点としてホルンの動機とともに第1楽章の冒頭が回想される。こうして楽曲全体のサイクルが完結すると、パッサカリアの主題を振り返りながら、音楽は静寂の中へと帰っていく。

作曲年代	1938～1943年
初演	1943年6月24日、プロムナード・コンサートにて、作曲家自身の指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

C

第1969回

NHKホール

11/18 **金** 7:30pm

11/19 **土** 2:00pm

指揮

レナード・スラットキン | プロフィールは p. 8

コンサートマスター

篠崎史紀

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

18日(金)6:45pm~/19日(土)1:15pm~

ヴァイオリン:郷古 廉、後藤 康 ヴィオラ:村上淳一郎 チェロ:山内俊輔

アイヴズ/スケルツォ

バーバー/弦楽四重奏曲 作品11—第2楽章「モルト・アダージョ」

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

コープランド

バレエ音楽「アパラチアの春」(全曲)

[38']

コープランド

バレエ音楽「ロデオ」(全曲) [25']

- I カウボーイの休日
- II 牛小屋のノクターン
- III 宿舎でのパーティ
- IV 土曜の夜のワルツ
- V ホー・ダウン

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。
※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力お願いいたします。

詳しくは35ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

アーロン・コーブランド(1900~1990)の作品には、左翼のプロパガンダ作品から晩年の十二音音楽までにいる、さまざまな^{かお}貌がある。しかし、その真骨頂はカラフルな管弦楽曲にあらう。とりわけ《ロデオ》と《アパラチアの春》は、アメリカそのものを主題にした点においても、彼の創作全体を代表する人気曲。この2曲がいずれも第2次世界大戦中に書かれたのは、おそらく偶然ではない。以下に記すように、戦争という状況と作曲家の成熟が重なった結果として、これらの果実が産みだされたように思えるのである。

コーブランド

バレエ音楽「アパラチアの春」(全曲)

モダン・ダンスの創始者マーサ・グレアムのために、戦争末期の1944年に書かれたバレエ曲である(グレアム自身が踊っている舞台を、YouTubeで観ることができる)。作曲者によれば、ここで描かれているのは19世紀初頭のペンシルヴェニアで若い夫婦が農家を新築した際の風景だという。

なによりこの曲を有名にしているのは、後半部であらわれるシェイカー教徒の聖歌《シンプル・ギフト》の存在だが(聖歌の作曲はエルダー・ブラケット)、都市文明から背を向け、自給自足に近いかたちで宗教生活を送るシェイカー教徒の生活は、戦時中のアメリカ人にとっては国の原点を思い起こさせるものだったろう。いわば、大恐慌と戦争という経験を経たからこそ「つつましくあることが神からの贈り物である」というメッセージが人々に共感をもって受け入れられることになったわけだ。ちなみにバレエ初演の舞台美術を務めたのは日系彫刻家のイサム・ノグチで、制作にあたってはシェイカー教徒の手作り家具が大いに参考になったという。

オリジナルのバレエ版は13人の奏者のために書かれていたが、その後、オーケストラによる組曲版が1945年に、さらにオーケストラによるバレエ全曲版が1954年に作成された。本日演奏されるのは、この全曲版である。

全体は7つの部分から構成されているが、継ぎ目はない。

まず、曲は弦楽器の作る^{もや}靄のなか、遠いエコーのように響くクラリネットの呼びかけで始まる。こんなに新鮮で清らかな音楽もめずらしい。やがて木琴を伴った鋭い響きがアレグロ部の開始を告げる。一気に華やかな気分が溢れだすが、なにより弦楽器による^{あふ}細かい上下行の間を、金管楽器がポリリズムックに行進する部分の音響アイデアが秀逸だ(ある意味でアイヴズの)。

ここから3つの踊りが続く。まず、音楽がモデラートに転じ、木管の細かいパッセージが重なりだすと、どこか不器用で垢ぬけない、新郎新婦の素朴なダンスの始まり。ここ

は間奏曲的な部分でもあるが、突然に弦楽器が深刻な響きを奏でたりするので気が抜けない。続いて、オーボエとフルートが導入するのは、男女が組になって踊る、スクエア・ダンス。途中では、肩すかしの様な変拍子も待ち受けている。そして音楽が、さらにテンポをあげると、花嫁ひとりによるダンスの開始。全体はきわめて活発な雰囲気ではあるのだが、時に複雑に揺れ動く音の表情からは、結婚への畏れと決意が透けてみえよう。

これらのダンスに続くのが、終曲へのブリッジといえる穏やかなしらべ。全曲の冒頭がゆるやかに回想されながら、音楽がしずかに歩みを止めてゆく。ここまでがおよそ20分程度だろうか。

そして一瞬の静寂のなか、ついにクラリネットではっきりと、シェイカー教徒の聖歌《シンプル・ギフト》の旋律が示される。子どもの童歌のようでありながらも滋味あふれる、不思議な旋律だ。ひとしきり提示がおわると、5つの変奏の開始。ここから10分ほどのあいだ見られる展開手法、多層的なオーケストレーション、そして微妙な和声の移ろいには、作曲家コーブランドの力量のすべてが投入されており、聴きごたえは抜群。

音楽は最後に、ひそやかなコーダに到達する。そしてコラルのような祈りが幾重にも重なってゆくなか、聴いている我々にも、つつましい幸福が訪れることになるのである。

作曲年代	1944年
初演	1944年10月30日、ワシントンDCの議会図書館にて、L. ホースト指揮による
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ1、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、グロッケンシュピール、シロフォン、ウッド・ブロック、クラベス、ハープ1、ピアノ1、弦楽

コーブランド

バレエ音楽「ロデオ」(全曲)

《春の祭典》に代表される斬新なバレエ作品でヨーロッパを席捲したバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)は、主宰者ディアギレフの死とともに、その歴史を閉じる。ほどなくして後継団体が設立されるも、活動方針をめぐって分裂。このうち、フランス人振付家のルネ・ブルムを中心にした一群は「バレエ・リュス・ド・モンテカルロ」の名を名ることになった。

この団体は、アメリカを主な公演地としていたために「アメリカ人作曲家による、アメリカを題材にした、アメリカのバレエ」を当初から求めていたという。とりわけ1941年にアメリカが大戦に参戦すると、国内のナショナリズムの高揚はすさまじいものとなったから、この波に乗らない手はなかったはずだ。

1942年、《バレエ「ビリー・ザ・キッド」》を観て気に入った振付師アグネス・デ・ミルは、コーブランドに、新作バレエのための委嘱を行なう。かくして作曲家は、さまざまなメリ

カの民謡素材を投入しながら、期待に応じて「アメリカ的な」バレエ音楽を完成させることになったのだった。

バレエの筋書きはごく単純で、ロデオの得意なカウボーイに夢中になったヒロインが、あの手この手で気を引こうとするがうまく行かず、最後には他の男と一緒にするというもの。

この曲は、4曲からなる組曲版で演奏されることが多いが、今日は全曲版での演奏。もともと、「全曲」といっても5曲しかないので、大きな差異といえるのは第3曲〈宿舎でのパーティ〉の有無ということになる(また、組曲版は、主にオーケストレーションの細部をコンパクトにまとめている)。

第1曲〈カウボーイの休日〉は、冒頭から金管の咆哮^{ほうこう}が耳を楽しませるが、スコアを見て驚くのは、多彩なリズムの変化が随所で感じられるにも関わらず、ほぼ2/2拍子のみで記譜されていること(わずかに2箇所、計2小節だけ3拍子が用いられている)。中間部ではファゴットとホルンの伴奏の上で「ユーモアを持って」と記されたトロンボーンソロ、続いてトランペットのソロが現れる。**第2曲〈牛小屋のノクターン〉**は、緩徐楽章の役割。弦楽器の透明な響き、隠し味のように寄り添うチェレスタが絶妙だ。組曲版では省かれた**第3曲〈宿舎でのパーティ〉**では、冒頭から、微妙に調律を狂わせた酒場風のピアノである、ホンキー・トック・ピアノが大活躍するが、そこにオーケストラが重ねあわされるとき立体感、これもまたアイヴズのともいえる前衛的な効果。**第4曲〈土曜の夜のワルツ〉**はフィドル(民俗音楽などで使用されるヴァイオリンのこと)を思わせるノン・レガートの弦楽器群を背景にして、オーボエのどこか懐かしい旋律があらわれる。そして、やはりさまざまな民謡が引用される**第5曲〈ホー・ダウン〉**では、一気に全管弦楽が稼働して、酒を飲んだカウボーイたちの馬鹿騒ぎがダイナミックに描きだされて全曲を閉じる。

作曲年代	1942年
初演	1942年10月16日外ロポリタン歌劇場、フランツ・アラース指揮による
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シロフォン、グロッケンシュピール、小太鼓、ウッド・ブロック、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、ラチェット、ムチ、大太鼓、ハーブ1、ピアノ2(チェレスタ1[ピアノは1台をホンキー・トック調に調整])、弦楽

N響百年史

第三十二回 続・「ケーニヒの学校」

片山杜秀
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。始動した新交響楽団と指揮者・近衛秀麿にオーケストラ音楽の髄を叩き込んだ「教師ケーニヒ」。そのバックボーンを探ります。

シベリウス、近衛を激賞！

シベリウスの《交響曲第2番》^{このまひでまろ}は十八番である。三拍子系のリズムを指揮棒のおはこ楕円運動で律しながら、滔々とした河のような流れを生み出し、満場を包み込んでゆく。雄大な自然体の演奏をした。作曲家本人のお墨付きも付いている。

1938(昭和13)年11月のことだ。近衛が新交響楽団と離別してから3年が経っている。彼はミュンヘンの放送局のオーケストラに客演して、その曲を振った。電波に乗った。フィンランドにも届いた。ラジオで自作の演奏を聴くことを最大の喜びとしていたシベリウスは、近衛の指揮をたいそう気に入っていたらしい。第2次世界大戦期、ベルリンを拠点にしていた近衛は、1941(昭和16)年5月——ということはヒトラーの大軍がソ連に侵攻し、フィンランドもソ連と戦端を開くことになる前月——、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団に招かれた。シベリウス本人の御膳立てであったようだ。同管弦楽団がオーケストラ・ピットに入るフィンランド国立歌劇場でプッチーニの《歌劇「蝶々夫人」》を振り、同管弦楽団のコンサートで2つのプログラムを指揮した。片方のメインの曲目は、むろんシベリウスの《交響曲第2番》。近衛は「シベリウスとラヂオ」と題された回想記(1947年)にこう記す。

「この演奏が、今迄僕の経験した数多い他の優秀楽団に依る、この交響曲の演奏中でも、最も素晴らしいものであったことは言ふまでもなからう。かういふ場合、指揮者は楽団に魅せられてしまつて、その弾かんとするがままに指揮させられてしまふものなのである」。近衛はその種の体験の実例として、モスクワでチャイコフスキーを、ベルリンでリヒャルト・シュトラウス

を、ドレスデンの歌劇場でウェーバーの《魔弾の射手》を指揮したときの思い出を列挙する。あの日もヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の掌上で踊っていたのだと振り返る。「特にその優れた金管と絃楽の部員とは、第二楽章と終楽章に無辺の偉力を発揮した。最終の和音が講堂の壁に響いて、この民族的な大曲が終わった瞬間、僕自身も聴衆と共に、興奮の絶頂にあることに気がついた。特に作曲家シベリウスの為にした筈のこの演奏は、自分自身の判断よりしても、極上の出来であつたと思う」

するとそのとき、日本の指揮者をヘルシンキに呼んだ作曲家本人はどこに居たか。会場に臨席していたのか。そうではなかった。近衛は書く。「舞台の中央に、この日には、よく目立つ特殊なマイクロフォンが立つて居た。もう年来公衆の前に出たことのない、ヤルヴェンパアの田舎に隠棲して居る老作曲家に聴かせる為の特別な取計ひであることは、誰にも一見して分かつたであらう」。そこで指揮者はシベリウスの交響曲の演奏を始める前、「場内の拍手に答へた上、この特別なマイクロフォンに向かつて敬礼をした」。すると会場はやんややんやの大喝采。国民的作曲家の遇され方とはそういうものなのであろう。

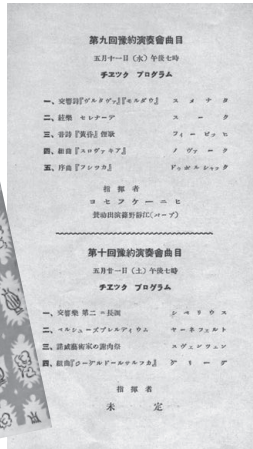
そうしてヘルシンキでの仕事のスケジュールがひととおり済んだ後も、なおしばし、近衛は同地に滞在した。リュティ大統領からは「フィンランドの白バラの付いた騎士の十字章」を授与された。フィンランド文化を国際的に顕揚した者に贈られる勲章だ。そのあと、ついに特別な機会が訪れる。ヘルシンキの高級住宅地のアパートの一室でシベリウスと面会した。大作曲家は言った。「第二交響曲の中継は、立派に成功でした。私はここの家の中で聴きました」。シベリウスは近衛のヘルシンキでのコン

サートの日にも、電波の受信状態について万全を期そうとしたのか、ヤルヴェンパーにある、アイノラと呼ばれる彼の山荘から、首都に出てきていたという。さらに近衛との面会のために、アイノラに呼びつけず、またもヘルシンキまで出て来てくれた。近衛秀麿は日本の貴族であり、日本とフィンランドはそのとき共に枢軸国の側にあり、秀麿の兄の文麿は1941(昭和16)年5月の時点で日本の首相であるということが、シベリウス個人の意思を超えた、国家的配慮をもたらしていたのかとも想像される。それでもとにかく破格の遇されようには違いない。そのうえ、大作曲家は本気で演奏を褒めてくれている。近衛は感きまわり、世界にシベリウスの音楽を広める使徒となると約した。「かうして、恐らく僕の一生の中の、一番光栄ある四半時が過ぎ去つたのだつた」

ケーニヒの教え

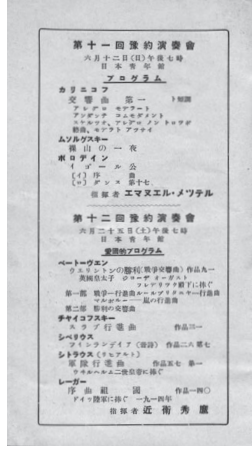
ところで、近衛はいつからシベリウスに本格的に興味を寄せるようになったのか。新交響楽団の時代になってからだろう。しかもすぐだ。結成2年目にして、定期公演を始めた最初の年の1927(昭和2)年の6月25日の第12回定期で、近衛はシベリウスの《フィンランディア》を取り上げている。それには伏線があった。5月21日の第10回定期で、ヨーゼフ・ケーニヒが北欧音楽プログラムを組んでいた。スヴェンセンやグリーグやイェルネフェルト、それにシベリウスの《交響曲第2番》である。近衛と新交響楽団の面々はこのとき“ケーニヒ先生”の徹底的な指導によって、北欧音楽、特にシベリウスに開眼させられた。

なぜ、ケーニヒが北欧音楽なのか。彼はチェ



『フィルハーモニー』(1927年5月号 [左の写真はその表紙])に掲載された第9回および第10回定期公演の曲目

『フィルハーモニー』(1927年6月号)に掲載された第11回および第12回定期公演の曲目



コの音楽家だ。プラハに学んだ。プラハ音楽院ではドヴォルザークの管弦楽法の授業に出席していた。その授業のめっちゃくちゃさを面白おかしく近衛や楽員に伝えた。大作曲家は教室に現れるなり黒板に楽案を記す。学生に問う。この旋律はどの楽器にふさわしいか。ひとりの学生がおそろおそろ答える。「ヴァイオリンではないでしょうか」。ドヴォルザークは怒る。「違うよ、クラリネットだ」。同じ授業の次の回。師は前回の課題と同じような旋律を示す。学生はこの前の教え通りにクラリネットと答える。するとドヴォルザークはまたも怒る。「違うよ、フルートだ」。なぜ、クラリネットだったものが今回はフルートなのか。師は理由を説明しない。そのまま授業は終わる。

ケーニヒは何を伝えたいのか。ドヴォルザークは理屈よりも直感であり、分析的に把握するよりも情緒的に追体験して弾かねばならないということだ。ケーニヒはドヴォルザークの指揮のもとでも演奏している。作曲家直伝の歌い直し、リズムのとり方、曲のいちいちの気分という

ものを、楽員はもちろん、ケーニヒの練習を必ず見学する近衛にも教える。近衛がチェコ音楽を指揮するときにも教えに来る。練習に立ちあい、どちらが指揮者かわからなくなる。ケーニヒは全部がチェコ音楽の定期公演も1927年のうちに開いている。5月11日の第9回定期だ。ドヴォルザークの《序曲「フス教徒」》、ノヴァークの《スロヴァキア組曲》、スークの《弦楽セレナード》、フィビヒの《交響詩「たそがれ」》、スメタナの《交響詩「モルダウ」》。なんとヴァラエティに富んでいることだろう。

シベリウスの《交響曲第2番》をメインに組んだ北欧音楽のみの定期公演は、このチェコ音楽のみの定期的10日後に行われた。“ケーニヒの学校”がいかに濃密なものであったか、見当もついてくる。彼は始動したばかりの新しい交響楽団に持てるすべてを叩き込もうと容赦がなかった。いやいや、ケーニヒがなぜ北欧音楽に強かったかという話である。答えはきわめて簡単であり、実際のだ。彼は1890年代に、近衛が1941年に指揮し、今もヘルシン

キ・フィルハーモニー管弦楽団として存続する名オーケストラの前身となる楽団に入って、第1ヴァイオリンの2番プルで弾いていた。シベリウスの曲も弾き、作曲家本人のことも知っていた。しかもそれはプラハの音楽家がヘルシンキの音楽家の中に紛れ込んだという水準のことではない。そもそも同団のコンサートマスターがプラハの大物ヴァイオリニスト、アントン・ジットだった。フィンランドの近代交響楽運動もその頃が草創期である。ヘルシンキでのプロフェッショナルな弦楽教育にはチェコの音楽家が大勢入って、かなりプラハ流に行われていた。ヘルシンキの楽団の弦楽セクションが身に付けていて、1941年に近衛秀麿を感激させた、いわば流動し、滾り、厚く鳴る響きとは、1890年代以来、フィンランドに植え付けられたチェコの流儀の伝承なのだった。

音楽とはやはり国際的なものである。シベリウスの粘りある作曲と、それを血肉したヘルシンキのオーケストラの演奏スタイルとは、スメタナやドヴォルザークを粘り強く演奏しようとするチェコらしさと無縁とはいえない。1941年の近衛はヘルシンキでケーニヒの話題を持ち出しては、当地の古参音楽家たちに懐かしがられて喜ばれたという。ジットやケーニヒによって粘り強い歌い回しの伝統を作られた、ヘルシンキのオーケストラが初演することを前提に、シベリウスは交響曲を連作していった。ケーニヒはというと、極東にやってきて、シベリウスの音楽の演奏の流儀を近衛と新交響楽団に伝えた。近衛はケーニヒ仕込みのシベリウス演奏をフィンランドでしてみせて、シベリウス本人が刮目した。めぐる因果は糸車。しかも良い因果話であ

る。これぞ好循環というものだろう。

チェコ音楽や北欧音楽に限らない。同じ構図がまだまだ見いだせる。ケーニヒが長く活躍したのは、サンクトペテルブルクのオーケストラである。だから特にリムスキー・コルサコフの音楽についても作曲家本人についても、ケーニヒは熟知し、リムスキー・コルサコフの延長線上にドビュッシーやラヴェルの管弦楽法を読み解き、練習することができた。それからマーラーである。ケーニヒはマーラーの指揮のもとでもモーツァルトから本人の作品までを演奏し、練習での指示をたくさん記憶していたようだ。マーラーがモーツァルトやベートーヴェンや自作の《第4番》と《第5番》の交響曲をどのように解釈して練習してオーケストラに何を要求したか、微に入り細を穿^{うが}って記憶していて、近衛や楽員たちに伝授していた。マーラーの音楽的要求がしばしばミクロに分裂しすぎていて、本番でよい結果を生みにくかったことを含めて。

ケーニヒは経験豊富な弦楽奏者、室内楽奏者として、新交響楽団のアンサンブルの土台を築いた。が、それだけではない。近衛の足らざるを補い、数々のレパートリーを教え、オーケストラの伝統となりうる楽曲解釈の規範を示した。余人をもって代えがたいとはケーニヒのことをいう。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2022年12月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

首席指揮者に就任後、2度目の来日となるファビオ・ルイーゼが、硬軟織り交ぜた多彩な3プログラムを贈る。

【第9】を想起させるブルックナー《第2番》を
味わい深い初稿版で堪能する

[Aプログラム]前半は、日本を代表するワーグナー歌手、藤村実穂子による《ウェーゼンドンクの5つの詩》。コロナ禍を経験し、音楽が人々の救いになり得ることを改めて実感したという藤村。醜悪なものに対抗できる最良の手段は“美”だと言い切る。巡りゆく宇宙や大自然を背景に、報われぬ恋のはかなさを歌ったワーグナーの究極の美の世界を堪能したい。

後半はワーグナーを崇拝していたブルックナーの《交響曲第2番》初稿版。よく演奏される改訂版との大きな違いはスケルツォが第2楽章に来ることで、この曲がベートーヴェン《第9》の影響を受けて書かれたことを想起せざるにられない。洗練の度合いは改訂版に一步譲るとしても、飾り気のない宗教的な

性格は初稿版の捨てがたい味わいである。

例えば緩徐楽章の終わりの大気に溶け込んでいくかのようなメロディ。クラリネットとヴィオラではなく、初稿通りホルンの方が“悠久の時”を感じさせる。終楽章で自作の《ミサ曲》からの引用が強調され、コーダではまるでオルガンのペダルのように、低弦だけが主題を奏でるのも印象的だ。

ルイーゼが“メンデルスゾーン最上の交響曲”
と呼ぶ《第3番「スコットランド」》

ブルックナーがオルガニストとして活躍したオーストリア北部のリンツは、モーツァルトゆかりの街でもある。[Cプログラム]の《交響曲第36番「リンツ」》は、旅の途中この地に滞在した作曲家が、わずか4日で仕上げたという。不世出の天才とはいえ、作品の完成度を考えると、ほとんど信じられない話である。

それからおよそ60年後、ロマン派の最盛期に生まれたのが、メンデルスゾーン《交響曲第3番「スコットランド」》。こちらは対照的に

着想から完成まで12年を要したが、優美さや隙のない書法は、モーツァルトに匹敵する。詩的情感に富みながら、第4楽章のクラリネット・ソロなど、革新的なアイデアにも事欠かない。ルイージは“メンデルスゾーン最上の交響曲”と呼んでいる。

2つの交響曲は、いずれも調号なしのハ長調とイ短調。《リンツ》第1楽章に現れる、晴れやかな付点つきリズムは、《スコットランド》第3楽章で色調を変え、愁いを帯びて回帰する。

**私たちの琴線に触れる
スラヴの甘く懐かしいメロディを聴く**

[Bプログラム]は直球の名曲プログラム。こうした定番のコース料理をためらいなく提供できるのも、新しいシェフ、ルイージの強みである。華々しく疾走するグリムカ《「ルスランとリュ

ドミーラ」序曲》を前菜に、スラヴ特有の甘く懐かしい旋律がたっぷりのメインディッシュ、ラフマニノフとドヴォルザークが続く。《ピアノ協奏曲第2番》と《新世界から》の演奏回数は、どちらもクラシックのコンサートで最上位にランクインするはずだ。

ニューヨークの音楽院に校長として招かれたドヴォルザークが現地で初演し、大成功を取めた《新世界から》。アメリカで晩年を過ごしたラフマニノフの没後間もなく、ラジオや映画で空前のブームを巻き起こした《ピアノ協奏曲第2番》。2曲とも戦後、メディアやレコード産業が発展し、クラシック音楽が幅広い層に受け入れられていく過程で大きな役割を果たした。絶大な人気とレパートリーとしての重要度は、今なお薄れていない。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

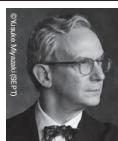
A 12/3 土 6:00pm
12/4 日 2:00pm
NHKホール

ワーグナー／ウェゼンドクの5つの詩
ブルックナー／交響曲 第2番 ハ短調 (初稿／1872年)
指揮：ファビオ・ルイージ
メゾ・ソプラノ：藤村実穂子



B 12/14 水 7:00pm
12/15 木 7:00pm
サントリーホール

グリムカ／歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
ドヴォルザーク／
交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：河村尚子



C 12/9 金 7:30pm
12/10 土 2:00pm
NHKホール

モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K. 425「リンツ」
メンデルスゾーン／
交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」
指揮：ファビオ・ルイージ



チケットのご案内(定期公演 2022年9月~2023年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	11-12・12月 発売中
	4・5・6月 2023年3月発売予定(定期会員先行/一般)

※発売日は決まり次第、N響ホームページ等で発表いたします

※発売予定時期は変更となる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~30%お得です! (割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	発売中
	シーズン会員券(Spring)	2023年2月14日[火](定期会員先行)/2023年2月17日[金](一般)

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)
券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

Autumn(9~11月)、Winter(12~2月)、Spring(4~6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※お取り扱いはWEBチケットN響のみとなります

※1回券の一般発売日からご利用いただけます

※割引の併用はできません

※定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022~23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am~5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

●主催公演開催日は曜日に問わず11:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は11:00am~3:00pmの営業

●感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhks.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on



2022-23定期公演プログラム

2022 12	A	第1971回	ルイーゼ&藤村のコンビで味わう19世紀ドイツ・ロマンティズムの真髄 ワーグナー／ウェーゼンドクンの5つの詩 ブルックナー／交響曲 第2番 ハ短調(初稿/1872年) 指揮:ファビオ・ルイーゼ メゾ・ソプラノ:藤村実穂子	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
		12/3(土) 6:00pm 12/4(日) 2:00pm			
	NHKホール				
2022 12	B	第1973回	ルイーゼの指揮、河村尚子のピアノで“究極”の名曲を堪能する グリムカ／歌劇「ルスランとリユドミィラ」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18 ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:河村尚子	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		12/14(水) 7:00pm 12/15(木) 7:00pm			
	サントリーホール				
2022 12	C	第1972回	モーツァルトの輝き、メンデルスゾーンの哀愁 ルイーゼが描き出す鮮烈なコントラスト モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K. 425「リッツ」 メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:ファビオ・ルイーゼ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		12/9(金) 7:30pm 12/10(土) 2:00pm			
	NHKホール				
2023 01	A	第1974回	名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え3年ぶりに登場! ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:ハオチェン・チャン	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		1/14(土) 6:00pm 1/15(日) 2:00pm			
	NHKホール				
2023 01	B	第1976回	色彩の魔術師ソヒエフがセレクトする20世紀の名品たち バルトーク／ヴィオラ協奏曲(シュレイ版) ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
		1/25(水) 7:00pm 1/26(木) 7:00pm			
	サントリーホール				
2023 01	C	第1975回	名匠が贈るラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作 ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7 チャイコフスキー／交響曲 第1番 ト短調 作品13「冬の日の幻想」 指揮:トゥガン・ソヒエフ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		1/20(金) 7:30pm 1/21(土) 2:00pm			
	NHKホール				
2023 02	A	第1977回	父・高忠とその友人たち 尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く 尾高尚忠／チェロ協奏曲 イ短調 作品20 バヌフク／カティンの墓碑銘 ルトスワフスキ／管弦楽のための協奏曲 指揮:尾高忠明 チェロ:宮田 大	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		2/4(土) 6:00pm 2/5(日) 2:00pm			
	NHKホール				
2023 02	B	第1979回	大器フルシャ、母国チェコの愛国的作品とブラームスの名作を携えN響再登場 ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」作品67 シマノフスキ／交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」* ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98 指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ビョートル・アンデルシェフスキ* 2/19回NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリース)	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
		2/15(水) 7:00pm 2/16(木) 7:00pm			
	サントリーホール				
2023 02	C	第1978回	愛、怒り、高揚、憧れ、幻想 —ダンスに込められた心の機微をフルシャが浮き上がらせる バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45 指揮:ヤクブ・フルシャ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
		2/10(金) 7:30pm 2/11(土) 祝 2:00pm			
	NHKホール				

Cプログラムについて ●休憩のない、60～80分程度の公演となります。●曲間に解説などが入る場合があります。●N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

	A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2023 04	A 第1980回 4/15(土) 6:00pm 4/16(日) 2:00pm NHKホール	バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ R. シュトラウス/「ヨゼフの伝説」から交響的断章 R. シュトラウス/アルプス交響曲 作品64 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
	B 第1982回 4/26(水) 7:00pm 4/27(木) 7:00pm サントリーホール	シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く シベリウス/交響曲 第4番 イ短調 作品63 ラフマニノフ/バガニョーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー/幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:マリー・アンジュ・グッチ*	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
	C 第1981回 4/21(金) 7:30pm 4/22(土) 2:00pm NHKホール	小粒でもどりりと辛い! バーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集 ルーセル/弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52 プーランク/シンフォニエッタ イペール/室内管弦楽のためのディヴェルティスマン 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2023 05	A 第1983回 5/13(土) 6:00pm 5/14(日) 2:00pm NHKホール	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ/歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドゥーリナ/オッフフェルトリウム* ドヴォルザーク/交響曲 第7番 二短調 作品70 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*	一般 ユースチケット S ¥9,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	B 第1985回 5/24(水) 7:00pm 5/25(木) 7:00pm サントリーホール	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う(田園) ハイドン/交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト/ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン/交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:ファビオ・ルイーザ ホルン:福川伸陽	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,000 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
	C 第1984回 5/19(金) 7:30pm 5/20(土) 2:00pm NHKホール	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く ザン・サンセス/ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 プーランク/交響曲 二短調 指揮:ファビオ・ルイーザ ピアノ:バスカル・ロジェ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
2023 06	A 第1986回 6/10(土) 6:00pm 6/11(日) 2:00pm NHKホール	“カゼツラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ/交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16 カゼツラ/歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演] 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ピアノ:ペフゾド・アブドゥライモフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
	B 第1988回 6/21(水) 7:00pm 6/22(木) 7:00pm サントリーホール	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価 パッサハ(レスピーギ編)/3つのコラル レスピーギ/グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ/交響曲 第1番 二短調 作品13 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500
	C 第1987回 6/16(金) 7:30pm 6/17(土) 2:00pm NHKホール	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のシオスタコーヴィチ(第8番) シオスタコーヴィチ/交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800 (料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/21 水 7:00pm
12/22 木 7:00pm
12/24 土 2:00pm
12/25 日 2:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:井上道義 ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:ベンヤミン・ブルンス
バス:マシュー・ローズ 合唱:新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円
ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

主催:NHK・NHK交響楽団 / NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 / 株式会社明電舎

12/27 火 7:00pm | かんば生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:井上道義 オルガン:勝山雅世* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ
ダカン／ノエル集 作品2—第10曲「グランジュとデュオ」ト長調* ラインケン／フーガ短調*
バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円
ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんば生命保険

第9チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引(22日公演をのぞく)
※12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約はスマートフォンやPCから、
座席を選んで簡単にチケットが確保できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161 NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (22日公演のみ)

- ※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)
- ※ 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
- ※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- ※ やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
- ※ チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」を必ずお読みください。

各地の公演

11/26(土) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:レナード・スラットキン ヴァイオリン:レイ・チェン
ヴォーン・ウィリアムズ / 「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション
メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
ヴォーン・ウィリアムズ / 交響曲 第5番 二長調

主催:NHK大阪放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

11/27(日) 4:00pm | 福岡シンフォニーホールリニューアル記念事業 NHK交響楽団 特別演奏会

福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は11月26日と同じ

主催:(公財)アクロス福岡、「福岡・音楽の秋」実行委員会 お問い合わせ:アクロス福岡チケットセンター TEL (092) 725-9112

1/9(月) 3:00pm | ニューイヤーコンサート NHK交響楽団 上田公演

サントミュージゼ 大ホール

指揮:沼尻竜典 ソプラノ:砂川涼子* テノール:宮里直樹**
R. シュトラウス / 歌劇「カプリッチョ」一六重奏(弦楽合奏版)、歌劇「ばらの騎士」組曲
J. シュトラウス2世 / 喜歌劇「こもり」序曲、喜歌劇「ヴェネチアの一夜」作品411—「さあゴンドラにお乗り」**
レハール / 喜歌劇「ジュディッタ」—「私の唇は熱いキスをする」*
ヨーゼフ・シュトラウス / ワルツ「天体の音楽」作品235
レハール / 喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」**
ジーツィンスキ / わが夢の街ウィーン*
J. シュトラウス2世 / ワルツ「美しく青きドナウ」作品314
レハール / 喜歌劇「メリー・ウィドー」—二重唱「とざした唇に」* **

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター) / 上田市教育委員会 お問い合わせ:上田市交流文化芸術センター TEL (0268) 27-2000

1/28(土) 2:00pm | トウガン・ソヒエフ&NHK交響楽団 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス
バルトーク / ヴィオラ協奏曲(シェリイ版)
ラヴェル / 「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
ドビュッシー / 交響詩「海」

主催:高崎芸術劇場((公財)高崎財団) お問い合わせ:高崎芸術劇場 チケットセンター TEL (027) 321-3900

2/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ビョートル・アンデルシェフスキ*

ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」作品67

シマノフスキ/交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*

ブラームス/交響曲 第4番 小短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場/NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

2/25(日) 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:辻彩奈

メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」作品26

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:NHK宮崎放送局/NHK交響楽団/(公財)宮崎県立芸術劇場 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/26(日) 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

iiichiko総合文化センター

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK大分放送局/NHK交響楽団/(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/27(日) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 熊本公演

熊本県立劇場

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK熊本放送局/NHK交響楽団/(公財)熊本県立劇場 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

3/7(火) 7:00pm | 2023都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 54

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:吉川隆弘

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第3番 小短調 作品37

ベートーヴェン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催・お問い合わせ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

3/12(日) 2:30pm | NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館 大ホール

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI

チャイコフスキー/イタリヤ奇想曲 作品45

パガニーニ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6

プロコフィエフ/バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問い合わせ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

3/18(土) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 西宮公演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:小山実稚恵

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:NHK神戸放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK神戸放送局 TEL (078) 252-5000

3/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

和歌山県民文化会館

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK和歌山放送局/NHK交響楽団/和歌山県/(一財)和歌山県文化振興財団 お問い合わせ:NHK和歌山放送局 TEL (073) 424-8111

3/20(月) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 堺公演

フェニーチェ堺

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK大阪放送局/NHK交響楽団/(公財)堺市文化振興財団 お問い合わせ:NHK大阪放送局 TEL (06) 6941-0431

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

1/8(日) 3:30pm

出演者・曲目は1月9日と同じ

3/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月12日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

- 青木 調
宇根京子
大鹿由希
□倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- 大宮臨太郎
○森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
□嶋田慶子
□白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

- 佐々木 亮
○村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

- 辻本 玲
○藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂弘志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- 吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

- 甲斐雅之
○神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

- 青山聖樹
○吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- 伊藤 圭
○松本健司
山根孝司
和川聖也

ファゴット

- 宇賀神広宣
○水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

- 今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

- 菊本和昭
○長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

- 古賀 光
○新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

- 池田幸広

ティンパニ

- 植松 透
○久保昌一

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

- 早川りさこ

ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

(五十音順、○首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストオールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートテレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川 儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 稲垣精二
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一郎
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 小栗勝男
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本通運(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓

- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾

- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
 - ・ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

千葉 潤 (ちば じゆん)

札幌大谷大学学長。2003年、モスクワ音楽院大学院から芸術学カンディダート (Ph. D) を授与される。専門はロシア音楽。著書に『ショスタコーヴィチ』(作曲家・人と作品シリーズ)、『アリフレド・シュニトケの交響的創作』、共編著書に『ロシア音楽事典』、おもな論文に「エディソン・デニソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴」など。

沼野雄司 (ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著者に『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ペリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

向井大策 (むかい だいさく)

沖縄県立芸術大学音楽学准教授。博士(音楽学)。おもな研究領域はベンジャミン・ブリテンを中心とした20世紀オペラ。監修に『ソング・オブ・サマー——真実のディーリアス』、共編著書に『地域芸能と歩む』など。文化庁・大学における文化芸術推進事業「地域と共創するリサーチ型芸術実践に向けた対話と思考の場の形成と人材育成」事業統括ディレクター。

(五十音順、敬称略)

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Muraō
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- Ryo Sasaki

- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- Satoki Aoyama
- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane
- Seiya Wakawa

Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto

- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Ōki
- Hideoy Kimura

(Principal, ☆ Acting Principal, Vice Principal, Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1968

NHK Hall

November

12(Sat) 6:00pm

13(Sun) 2:00pm

conductor

Michiyoshi Inoue

concertmaster

Ryotaro Ito

Akira Ifukube

Sinfonia Tapkaara [31']

I Lento Molto–Allegro

II Adagio

III Vivace

Publisher: Orchestra Nipponica Archives Collection,
Tokyo College of Music Library

— intermission (20 minutes) —

Dmitry Shostakovich

Symphony No. 10 E Minor Op. 93

[55']

I Moderato

II Allegro

III Allegretto

IV Andante–Allegro

- All performance durations are approximate.

12 & 13, NOV. 2022

Artist Profile

Michiyoshi Inoue, conductor



© Yukio Tabei

Born in Tokyo in 1946, Michiyoshi Inoue studied under Hideo Saito at Toho Gakuen School of Music and launched his career internationally after winning the Guido Cantelli Conducting Competition in Milan in 1971. He has continuously served in positions such as Music Director of the New Japan Philharmonic and the City of Kyoto Symphony Orchestra, Principal Conductor of the Osaka Philharmonic Orchestra, and Music

Director of the Orchestra Ensemble Kanazawa (presently Conductor Laureate) while also working with renowned orchestras such as the Chicago Symphony Orchestra, the Münchner Philharmoniker as well as serving as Principal Guest Conductor of the New Zealand Symphony Orchestra.

In 2007, he led a Shostakovich complete symphonies project with five Japanese and Russian orchestras which was a great success. He took a rest due to illness in April 2014, but he returned to the podium in October of the same year, and then as a general director, he created unrivaled stages of a new production of Mozart's *Le Nozze di Figaro* (stage direction by Hideki Noda) in 2015 and 2020, Bernstein's *Mass* at the Osaka International Festival in 2017, and *Don*

Giovanni (stage direction by Kaiji Moriyama), but in November last year, he announced on his blog that he would retire at the end of 2024. Therefore, every NHK Symphony Orchestra concert he conducts from now on will be a very precious opportunity.

Since his first collaboration with the orchestra in May 1978, he has conducted more than 70 concerts including those overseas, and he will be conducting the orchestra's Beethoven 9th Symphony Concerts at the year end. Expectations are especially high for this month's program featuring masterpieces of Akira Ifukube and Shostakovich, the composers he has been particularly known for.

[Michiyoshi Inoue by Katsuhiko Shibata, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Akira Ifukube (1914–2006)

Sinfonia Tapkaara

A herald of Japan's classical music, Ifukube beat a path for younger generations such as the world-famous composer Toru Takemitsu (1930–1996). Born in Hokkaido, the country's northern island, Ifukube spent his childhood surrounded by folk tunes sung by different settlers and music of the Ainu, the local indigenous population. He took up playing violin before beginning to teach himself composition at age 15.

Ifukube's style is marked by folk colors and powerful rhythms which he expressed precisely by his skillful orchestration. Also, he frequently made use of ostinato, technique of repeating persistently a rhythmic and/or melodic pattern. All these features are even found in the main theme he wrote for the 1954 movie "Godzilla." While the soundtrack has brought his name to wide audience, he left us a number of important classical works. And its excellent example is *Sinfonia Tapkaara* composed in 1954 and revised in 1979.

Tapkaara is a ritual stomping dance of the Ainu. According to the composer, he wrote this sinfonia (symphony), one and only piece he named so, in empathy with the Ainu people and feeling nostalgia for his own boyhood. The first movement starts with a dignified introduction directly giving the melodious first theme. The soul-stirring Allegro main section reminds us of Stravinsky's avant-garde ballet *Rite of Spring* (1913) repeating the first theme which now stomps with sharp accents. At the outset of the second movement, harp gives the descending theme, which would (later in a shortened shape) sound incessantly as an ostinato. The third movement is also dominated by "repetition" of rhythmic/melodic motifs and even of the same notes, which leads to the rousing ending with trancelike piccolo.

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

Symphony No. 10 E Minor Op. 93

A contemporary of the *Sinfonia Tapkaara*, Shostakovich's Tenth was premiered in December 1953 in St. Petersburg (then Leningrad). It is said to have been composed in the summer of 1953 right after Joseph Stalin died in March, while some sources suggest that

certain of the elements date back to the pre-Thaw period.

Unlike Rachmaninov, Stravinsky and others who fled to (or decided to stay in) the West, Shostakovich remained behind the Iron Curtain. Thus, he had been considered a Soviet-patronized composer who joined their propaganda. He certainly “rehabilitated” himself a few times creating “proper Soviet music” following infamous censorships. However, *Testimony* (1979) — a book published by Solomon Volkov as memoirs of Shostakovich—rewrote his image. Though the book’s genuineness is controversial, the composer is regarded today as a man who resisted the regime in spirit and revealed his real intentions in his music bravely but secretly. As for Op. 93, he explains in *Testimony* that it is about Stalin and the Stalin years and that the second movement is the dictator’s musical portrait. The work sounds undoubtedly dark and tragic except for the optimistic conclusion.

The extensive opening movement is in sonata form. At the start, cellos and basses intone the dusky first theme as if hesitantly, while the second theme given by solo flute over strings’ pizzicato becomes an ominous waltz. These two elements are developed to eventually reach an orchestral scream. Piccolo with a high-pitched voice ends feebly this movement. The second movement is a savage Scherzo which evokes belligerent military music, lacking any contrastive trio (central) section. After the “supposed” portrait of the oppressor, the composer himself appears during the dance-like third movement: here we hear clearly the famous DSCH motif consisting of four notes D–E flat–C–B (D–Es–C–H in German notation) after the German transliteration of his name (**D. SCH** ostakowitsch). The final movement has a slow introduction. Then an abrupt clarinet signal opens the clamorous main section. The DSCH motif is shouted out by the whole orchestra including tam-tam at the zenith, before being pronounced by horns, trombones and timpani each in turn in the breathtaking coda.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.1970

Suntory Hall

November

23(Wed) 7:00pm

24(Thu) 7:00pm

conductor Leonard Slatkin

violin Ray Chen

concertmaster Ryotaro Ito

The 150th Anniversary of Vaughan Williams's Birth

Ralph Vaughan Williams
Five Variants of *Dives and Lazarus*
[11']

Felix Mendelssohn Bartholdy
Violin Concerto E Minor Op. 64
[30']

- I Allegro molto appassionato
- II Andante
- III Allegretto non troppo–Allegro molto vivace

— intermission (20 minutes) —

Ralph Vaughan Williams
Symphony No. 5 D Major [39']

- I Preludio: Moderato
- II Scherzo: Presto misterioso
- III Romanza: Lento
- IV Passacaglia: Moderato

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Leonard Slatkin, conductor



One of the world's leading conductors, Leonard Slatkin was born in Los Angeles in 1944 to a musical family. His father Felix Slatkin was a renowned conductor and violinist, and founder of the Hollywood String Quartet, and his mother was a cellist of the quartet. He studied conducting under Jean-Paul Morel at the Juilliard School. From 1979 to 1996, he served as Music Director of the St. Louis Symphony Orchestra, and significantly improved the orchestra's performance quality while making a great number of recordings. Then he was Music Director of the National Symphony Orchestra from 1996 to 2008,

and from 2000 to 2004 he also served as Chief Conductor of the BBC Symphony Orchestra. In 2008, he was appointed Music Director of the Detroit Symphony Orchestra, and for over a decade, he contributed to the development of the orchestra (now Music Director Laureate), and from 2011 to 2017, he made a great achievement as Music Director of the Orchestre national de Lyon (now Honorary Music Director). He has made innumerable guest appearances with the world's most prestigious orchestras, and with the NHK Symphony Orchestra, he has made a return every few years since his first appearance in 1984, forging a close and trusting relationship.

The music he creates has both bright and dynamic expansion and meticulous detail, and surely such fine quality will be fully displayed in the works of Vaughan Williams and Copland which he has been especially noted for. The coming subscription concerts under his baton will be no doubt a good opportunity to highlight the authentic value of such works which are rarely performed in Japan.

Ray Chen, violin



Born in Taiwan and growing up in Australia, Ray Chen was admitted to the Curtis Institute of Music in Philadelphia when he was fifteen, to study under Aaron Rosand. He won the Yehudi Menuhin International Competition in 2008 and the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2009, and garnered the world's attention. He was introduced as an artist worth attention in *Strad* and *Gramophone*, both major music magazines in Europe, and was selected as one of 30 most influential Asians under 30 years old in *Forbes Magazine*. After winning international competitions, he has worked with the world's famed orchestras including the London Symphony Orchestra, the Leipzig Gewandhaus Orchestra and the Los Angeles Philharmonic with conductors such as Riccardo Chailly, Vladimir Jurowski, and Sakari Oramo.

He currently plays a 1714 Stradivarius 'Dolphin' on loan from the Nippon Music Foundation.

[Leonard Slatkin by Motoyuki Teranishi, music critic, Ray Chen by Takuya Katagiri, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Ralph Vaughan Williams (1872–1958)

Five Variants of *Dives and Lazarus*

Born in South England, Vaughan Williams (hereafter VW) had a distinctive “English” style firstly because he collected/edited English folksongs and carols of which he used many in his own compositions.

The uniqueness of Five Variants of *Dives and Lazarus* (1939) resides in its concept, as this is a series of “variants” but not “variations”. In the oral tradition, one single folksong has diverse variants (versions) with slightly different music and/or words. Here VW joined a folksong and its variants to freely orchestrate them. The melody of *Dives and Lazarus* has been known in England since the 16th century at least. The lyrics are based on the parable of Jesus

from *the Gospel of Luke* about a rich man who refuses to give alms to a beggar.

Despite a small ensemble for strings and harp, the work sounds thick (for each section is often subdivided) but also transparent thanks to VW's exceptional orchestration inherited from his teacher Ravel. The introduction where the original tune is given and the five variants are played seamlessly, but the start of each is noticeable with the change of atmospheres and times. The most recognizable is the Variant III as it's opened by the violin solo over harp accompaniment. The Variant V in 4/4 time evokes a solemn chorale. After the powerful climax, a tranquil moment comes to end this beautiful piece which was unsurprisingly played at the composer's funeral.

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809–1847)

Violin Concerto E Minor Op. 64

Born in Germany, Mendelssohn wore many hats: as a gifted composer, an excellent pianist, an inspirational conductor—he led the prestigious Gewandhausorchester Leipzig—and an indefatigable educator who founded the Leipzig Conservatory. He was also a leader of the “revival” of J. S. Bach's works.

It is no exaggeration to say that Op. 64 is the most popular violin concerto. Mendelssohn wrote it for Ferdinand David, a violinist who was then concertmaster of the Gewandhausorchester, taking advice from him. The premiere took place in 1845, two years earlier than the composer's demise at age 38.

All the three movements are played without pause, which was exceptional during the time. Mendelssohn fills the concerto with Romantic virtuosity while following Classical concerto format in a free manner. The opening sonata movement has an introduction less than two bars before the violin solo enters singing the—world-famous—flowing, fervent first theme. The G-major second theme introduced by woodwinds has a calmer character. Here the composer wrote down the soloist's cadenza (virtuosic improvisatory section) in full, which was, again, an atypical thing in those days. Following a sustained note by bassoon as a bridge, the next slow movement in C major starts. It has a symmetric A–B–A form with the unquiet central section. The final movement has a minor short prelude by strings before a bright trumpet fanfare announces the beginning of the E-major Allegro section in sonata rondo form. Then the solo violin gives immediately the bouncing main theme. The soloist and the orchestra both dash for the feverish, festive ending.

Ralph Vaughan Williams

Symphony No. 5 D Major

Trained in London and later by Bruch and Ravel on the continent, VW was a prolific composer who pursued a wide range of genres. However, his role as a great symphonist was particularly essential for 20th century music history, as most of his contemporaries turned their back on the tradition of symphony anchored by Bruckner and Mahler.

VW left us nine symphonies premiered between 1910 and 1958. Interestingly enough, the Fifth is “dedicated without permission to Jean Sibelius” (VW's own expression), another great symphonist of the century whom VW esteemed. Of all nine, the Fifth is the most serene symphony. This character is somewhat unexpected considering its historical backdrop, as it

was composed mostly during World War II. Conceivably, an undertone of darkness in this idyllic music might be tied to this unpeaceful time. We should also consider that numbers of this symphony's main materials are quoted from his then-uncompleted opera *The Pilgrim's Progress* based on a Christian allegory written by the Puritan preacher John Bunyan. VW had been working on this opera since the pre-war period.

The Fifth consists of four movements. VW first brings the home key into question, as the opening movement in flexible sonata form begins dissonantly with a horn dotted call in D major against a C note sustained by low strings. Then the violins doubled by flutes introduce the folksy, slightly dark main tune in D major, before the radiant second theme is given by violins in E major. The next movement is a rhythmically inventive scherzo. The third movement begins with strings utilizing mutes, a device to make a softer sound, and a lone cor anglais (English horn) solo. Soon after, violas lead a contrapuntal string ensemble followed by an extensive, intense musical meditation. In the last movement, VW modernizes the past passacaglia form, a series of variations over a repetitive bass melody. This luxuriant finale reminds us of how deeply VW is rooted in the 16th–17th century's polyphonic tradition of England. The symphony has a celestial conclusion in D major as though it answered the opening question.

B

23 & 24, NOV, 2022

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 39

PROGRAM

C**Concert No.1969****NHK Hall****November****18 (Fri) 7:30pm****19 (Sat) 2:00pm**

conductor Leonard Slatkin | for a profile of Leonard Slatkin, see p. 40**concertmaster** Fuminori Maro Shinozaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 18th from 6:45pm / Saturday 19th from 1:15pm

Sunao Goko(vn.), Ko Goto(vn.), Junichiro Murakami(va.), Shunsuke Yamanouchi(vc.)

Ives / Scherzo

Barber / String Quartet Op. 11—2nd Movement “Molto adagio”

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Aaron Copland
***Appalachian Spring*,**
ballet (complete) [38’]**Aaron Copland**
***Rodeo*, ballet (complete) [25’]**

- I Buckaroo Holiday
- II Corral Nocturne
- III Ranch House Party
- IV Saturday Night Waltz
- V Hoe-Down

- There will be no intermission in this concert.
 - All performance durations are approximate.
-

Program Notes | Kumiko Nishi

Aaron Copland (1900–1990)***Appalachian Spring*, ballet (complete)**

The future “Dean of American Composers,” Copland was trained by the legendary music pedagogue Nadia Boulanger in Paris in the early 1920s. At the time, he began to search for an “American” style under the influence of jazz. Although he mostly parted with the jazz idiom after a while, he would continue to ask himself what true American music is. The best-known result of this quest is his trilogy of ballets: *Billy the Kid*, *Rodeo* and *Appalachian Spring*.

Appalachian Spring was scored for the American dancer and choreographer Martha

Graham and premiered in 1944 in Washington D.C. with the set by the Japanese American sculptor Isamu Noguchi. Incidentally, Copland had completed the music before Graham suggested him the title, a quote from Hart Crane's poem. It since amused the composer to hear people praising him for skillfully describing the springtime Appalachians of which he had never been aware during the composition.

The story is set in the early 19th century in Pennsylvania. It recounts a pioneer celebration at a farmhouse newly built for a young bride and groom, featuring also an older pioneer lady, a revivalist preacher and his congregation. Square dances and rural fiddlers heard in the middle of the work brings about a folkish feeling. The highlight of the whole score comes afterwards with a set of five variations. It is on the famous Shaker song *Simple Gifts* of which the melody is introduced serenely by a clarinet solo. According to Copland, this is the only quote of an actual folk tune in this ballet, and besides it he created “rhythms, harmonies and melodies that suggest an American ambiance”.

Aaron Copland

Rodeo, ballet (complete)

Copland's pursuit of a distinctive American classical music resulted in a simple but strong, accessible but highly unique style with tunefulness and evocativeness. He himself mentioned that the basis for this quest was his increasing dissatisfaction with the relations of music-loving public and living composers.

Rodeo: The Courting at Burnt Ranch was composed for Agnes de Mille, another leading American dancer. Its 1942 premiere in New York was a tremendous success. Indeed, the supremely American subject and the score abundant in American folk melodies—most of which are intact—were a perfect fit with the wartime patriotic mood.

The ballet tells a story linked to gender concerns of today. The opening *Buckaroo Holiday* is a bustling scene where cowboys gather for a rodeo. A mannish Cowgirl, the lead role, is portrayed by the slower, hesitating melody. She tries to attract the Head Wrangler by riding a wild horse, but he prefers another feminine girl. In *Corral Nocturne*, a melancholic clarinet melody describes the Cowgirl lone and disappointed. Then honky-tonk by piano starts *Ranch House Party*. Cowboys and their girls swirl in pairs during *Saturday Night Waltz* while the Cowgirl in a boyish outfit is standing alone before the Roper approaches her. *Hoe-Down* begins with the famous American fiddle tune *Bonaparte's Retreat* which recurs during this finale. Here the Cowgirl, dressed up to prove her charm, steals the hearts of cowboys including the Head Wrangler.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 39

C

18 & 19. NOV. 2022

The Subscription Concerts Program 2022–23

2022 12	A	Concert No. 1971	Wagner <i>Wesendonck Lieder</i> Bruckner Symphony No. 2 C Minor (First Version / 1872)	Ordinary	Youth
		December 3 (Sat) 6:00pm 4 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Mihoko Fujimura, mezzosoprano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
		NHK Hall			
	B	Concert No. 1973	Glinka <i>Ruslan and Lyudmila</i> , opera – Overture Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 Dvořák Symphony No. 9 E Minor Op. 95, <i>From the New World</i>	Ordinary	Youth
		December 14 (Wed) 7:00pm 15 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Hisako Kawamura, piano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 1972	Mozart Symphony No. 36 C Major K. 425, <i>Linz</i> Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i>	Ordinary	Youth
		December 9 (Fri) 7:30pm 10 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			
2023 01	A	Concert No. 1974	Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60	Ordinary	Youth
		January 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Haochen Zhang, piano	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
		NHK Hall			
	B	Concert No. 1976	Bartók Viola Concerto (Serly version) Ravel <i>Daphnis et Chloé</i> , suite Nos. 1 & 2 Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches	Ordinary	Youth
		January 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Amihai Grosz, viola	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 1975	Rakhmaninov <i>The Rock</i> , fantasy, Op. 7 Tchaikovsky Symphony No. 1 G Minor Op. 13, <i>Winter Dreams</i>	Ordinary	Youth
		January 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			
2023 02	A	Concert No. 1977	Hisatada Otaka Cello Concerto A Minor Op. 20 Panufník <i>Katýř Epitaph</i> Lutosławski Concerto for Orchestra	Ordinary	Youth
		February 4 (Sat) 6:00pm 5 (Sun) 2:00pm	Tadaaki Otaka, conductor Dai Miyata, cello	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
		NHK Hall			
	B	Concert No. 1979	Dvořák <i>Hussite Overture</i> , Op. 67 Szymanowski Symphony No. 4 Op. 60, <i>Symphonie concertante</i> * Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98	Ordinary	Youth
		February 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm	Jakub Hrůša, conductor Sun. 19 February The Subscription Concert Series in Aichi Prefectural Art Theater	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 1978	Bernstein Symphonic Dances from <i>West Side Story</i> Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45	Ordinary	Youth
		February 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm	Jakub Hrůša, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
		NHK Hall			

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.

- There may be a commentary about works, preceding performances.

- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

Program C

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023
04

A Concert No. **1980**
April
15 (Sat) 6:00pm
16 (Sun) 2:00pm

R. Strauss Symphonic Fragments from *Josephs Legende*
R. Strauss *An Alpine Symphony* Op. 64

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

NHK Hall Paavo Järvi, conductor

B Concert No. **1982**
April
26 (Wed) 7:00pm
27 (Thu) 7:00pm

Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63
Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43*
Tchaikovsky *Francesca da Rimini*, Symphonic fantasy after Dante, Op. 32

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

Suntory Hall Paavo Järvi, conductor
Marie-Ange Nguci, piano*

C Concert No. **1981**
April
21 (Fri) 7:30pm
22 (Sat) 2:00pm

Roussel Sinfonietta for String Orchestra Op. 52
Poulenc Sinfonietta
Ibert *Divertissement* for Chamber Orchestra

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

NHK Hall Paavo Järvi, conductor

2023
05

A Concert No. **1983**
May
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

Rakhmaninov Songs Op. 34 – *The Raising of Lazarus* (arr. Shimono),
Vocalise
Gubaidulina *Offertorium**
Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

NHK Hall Tatsuya Shimono, conductor
Baiba Skride, violin*

B Concert No. **1985**
May
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm

Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, *The Bear*
Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447
Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastoral*

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

Suntory Hall Fabio Luisi, conductor
Nobuaki Fukukawa, horn

C Concert No. **1984**
May
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, *The Egyptian*
Franck Symphony D Minor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

NHK Hall Fabio Luisi, conductor
Pascal Rogé, piano

2023
06

A Concert No. **1986**
June
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm

Prokofiev *The Love for Three Oranges* Op. 33bis, symphonic suite
Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16
Casella Symphonic Fragments from *La donna serpente* [Japan Première]

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

NHK Hall Gianandrea Noseda, conductor
Behzod Abduraimov, piano*
*Changed from initially scheduled.

B Concert No. **1988**
June
21 (Wed) 7:00pm
22 (Thu) 7:00pm

Bach / Respighi *Three Chorales*
Respighi *Concerto gregoriano**
Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

Suntory Hall Gianandrea Noseda, conductor
Sayaka Shoji, violin*

C Concert No. **1987**
June
16 (Fri) 7:30pm
17 (Sat) 2:00pm

Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

NHK Hall Gianandrea Noseda, conductor

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

ともに創る未来へ。- Challenge SEITOKU -

かけがえない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越る挑戦で、新しい価値を創る力を。



「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を
育みます。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を
実践的に学ぶプログラムが本格始動。
先見の視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、
新時代の女性リーダーを育成します。

2021・2022 実就職率 全国女子大学ランキング



(97.4% 2022年3月卒業生)
※卒業生500人以上の女子大実就職率
2022年大学通信調べ



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
[博士前期・後期課程](共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英VERITAS高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英VERITAS中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー(SOA)

モノが語る、声を届ける



骨董・古美術 月刊誌「目ノ眼」
11月号 | 発売中

国宝再見

東京国立博物館の150年
特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」
連載 潮田洋一郎 近衛忠大 澤田瞳子ほか

長谷川等伯 松林図屏風
東京国立博物館蔵

出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)

12月号 | 11月15日発売
特集 渥美と常滑
土に還る窯、今を生きる窯

「目ノ眼」最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com
毎月15日発売 1,320円 (税込)





www.onkyo-audio.jp

7.2ch AVレシーバー TX-NR6100(B)

ONKYO

生き続ける日本のクラフトマンシップ
伝統のブランドから待望の新製品登場

Pioneer

www.pioneer-audio.jp



9ch AVレシーバー
VSX-LX305(B)

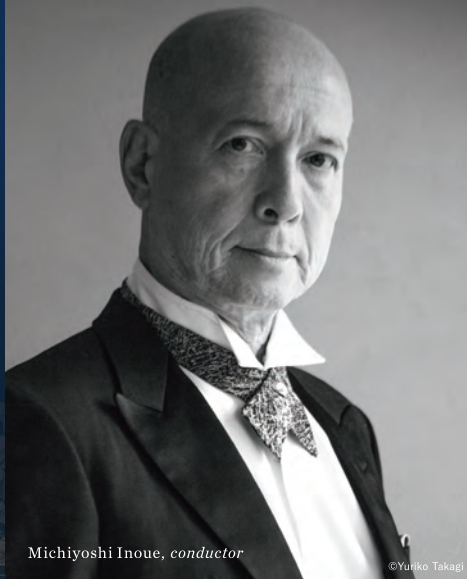
日本販売代理店：ティアック株式会社

かんぽ生命 presents

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 第九

Special Concert



Michiyoshi Inoue, conductor

©Yuriko Takagi

2022年12月27日(火) 7:00pm
サントリーホール

Tuesday, December 27, 2022 Suntory Hall

指揮：井上道義

ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー

メゾ・ソプラノ：藤村実穂子

テノール：ベンヤミン・ブルンス

バス：マシュー・ローズ

合唱：新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
New National Theatre Chorus/ Tokyo Opera Singers, choruses



©Marco Baggiani

Christina Landshamer,
soprano



©R&G Photography

Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



©Sara Schlangen

Benjamin Bruns,
tenor



©Lena Kern

Matthew Rose,
bass

Program

ダカン／ノエル集 作品2－第10曲「グランジュとデュオ」ト長調
Daquin *Nouveau Livre de Noël* for Organ Op. 2
—X. *Grand Jeu et Duo* G Major

ラインケン／フーガ ト短調
Reincken Fugue G Minor

バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545
Bach Prelude and Fugue C Major BWV545

オルガン：勝山 雅世 Masayo Katsuyama, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

料金(税込)	S ¥17,500	A ¥14,500	B ¥11,500	C ¥8,000
ユースチケット (25歳以下)	S ¥8,750	A ¥7,250	B ¥5,750	C ¥4,000

発売開始 10月10日(月・祝) 11:00am
N響定期会員先行発売 10月5日(水) 11:00am
[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ：N響ガイド 03-5793-8161
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

進化するぬくもり。

主催：NHK交響楽団
特別協賛：
株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命

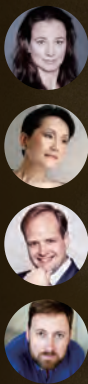
NHK交響楽団「ベートーヴェン」第9「演奏会」
ベートーヴェン／交響曲第9番ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony
No. 9 D Minor Op.125, Choral
Michiyoshi Inoue, conductor
Christina Landshamer, soprano
Mihoko Fujimura, mezzo soprano
Benjamin Bruns, tenor
Matthew Rose, bass
New National Theatre Chorus, chorus
Tokyo Opera Singers, chorus

主催：NHK／NHK交響楽団
主催(22日)：NHK／NHK厚生文化事業団
協賛：みずほ証券株式会社／はごろもアース株式会社／
JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 株式会社明電舎

第9響

Beethoven
9th Symphony
Concert



指揮◎井上道義

ソプラノ◎クリスティーナ・ランツハマー

メゾソプラノ◎藤村実穂子

テノール◎ベンヤミン・ブルンス

バス◎マシュー・ローズ

合唱◎新国立劇場合唱団 東京オペラシンガーズ



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

2022年

12/21 水 7:00pm
12/22 木 7:00pm*
12/24 土 2:00pm
12/25 日 2:00pm

NHKホール

*12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです

発売開始：10月10日(月祝) 11:00am

N響定期会員先行発売(22日公演をのぞく)：10月5日(水) 11:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、22日公演をのぞく]

料金(税込)	
一般	ユースチケット(25歳以下)
S ¥15,000	S ¥7,500
A ¥12,000	A ¥6,000
B ¥9,000	B ¥4,500
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥4,500	D ¥2,250

前売所

- WEBチケットN響 <https://ticket.nhksa.or.jp/>
- N響ガイド 03-5793-8161
- チケットぴあ pia.jp/t/nhksa/
- e+ (イープラス) eplus.jp/nhksa/
- ローソンチケット l-tike.com/nhksa/

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。
感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)
※ 定期会員割引(先行発売)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります
※ 車いす席をご希望の方は、N響ガイド(22日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください

お問い合わせ

- N響ガイド：03-5793-8161(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)
- NHK厚生文化事業団：03-3476-5955(22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm)

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社